

1 題材について

対 象 学 年	中学校 第3学年
学 習 指 導 要 領	第2学年及び第3学年の内容 A表現（1）ア、イ、エ B鑑賞
題 材 名	「私の心の世界」(絵画 全11時間)
題 材 目 標	<p>自分の夢、想像や感情など心の世界を表現するために、課題をもち材料や用具を生かして粘り強く追究しようとしている。</p> <p style="text-align: right;">【美術への関心・意欲・態度】</p> <p>主題を発想し、スケッチなどを基に想像力を働かせ、単純化や省略、強調、構成の仕方材料の組み合わせなどを工夫し、心豊かな表現の構想を練る。</p> <p style="text-align: right;">【発想や構想の能力】</p> <p>日本及び諸外国の作品の独特な表現形式や構成、技法などに関心を持ち、自分の表現に合う新たな表現方法を研究するなどして創造的に表現する。</p> <p style="text-align: right;">【創造的な技能】</p> <p>感性や想像力を働かせて、その美術作品のよさや美しさ、作者の心情を感じ取ることができる。</p> <p style="text-align: right;">【鑑賞の能力】</p>
配 慮 事 項	<p>基礎的・基本的な内容の確実な定着の工夫 題材指導計画作成上の工夫</p> <ul style="list-style-type: none"> ・4観点から、本題材の基礎的・基本的内容を具体化し、単位時間における指導内容を明確にする。 ・制作方法を選択する前に、基本的な表現方法を試す場を位置付け、自分の制作したいイメージにあった方法を選択できるようにする。 <p>単位時間における工夫</p> <ul style="list-style-type: none"> ・導入段階で、本時の課題と個々における課題をつかみ、表現したいことに対応できる学習形態や資料を提示できる場面をつくりだす。 ・ねらいから見た生徒の課題を、生徒の自己評価や作品から把握し、評価規準をもとに個に応じた指導援助ができるようにする。
参 考 資 料	<p>鑑賞資料 ゴッホ・シーレ・シャガール 道具別制作過程ビデオ 色調資料 明暗資料 構成資料</p>

2 評価規準

	a 美術への関心・意欲・態度	b 発想や構想の能力	c 創造的な技能	d 鑑賞の能力
内容のごまとのま評 り価 規 準	自然や身近なもの、美術作品などのよさや美しさ、美術文化や文化遺産などに対する関心を高め、自分のよさを生かして表現や鑑賞の創造活動に主体的に取り組み、美術を愛好し心豊かな生活を創造していこうとする。	感性や想像力を働かせて、対象やものごとを深く見つめよさや美しさなどを感じ取ったり考えたり、用途や機能を考えたりして、独創的で豊かな発想をし、心豊かで創造的な表現の構想をする。	感じ取ったことや心の世界などをスケッチに表し、想像力や創造的な技能などを働かせ表現意図に合う新たな表現方法を研究するなどして創意工夫し、創造的に表す。	自然、美術作品や生活の中の造形、美術文化や文化遺産などに親しみ、感性や想像力を働かせてよさや美しさ、作者の心情や意図と表現の工夫、創造力の豊かさなどを感じ取り味わったり、理解や見方を深めたりする。
題材にお評 け価 る規 準	材料や道具、表現の効果を生かして、自分の主題に合った表し方を粘り強く追究しようとしている。	主題を発想し、スケッチなどを基に想像力を働かせ、単純化や省略、強調、構成の仕方材料の組み合わせなどを工夫し、心豊かな表現の構想を練る。	制作方法や用具、技法などの特徴を生かし、自分の表現に合う新たな表現方法を研究するなどして創造的に表現する。	感性や想像力を働かせて、その美術作品のよさや美しさ、作者の心情を感じ取ることができる。
単位時間 に具 お体 けの 評 価 規 準	参考作品から、よさや美しさ、独特な表現技法などを見付けようとする。 自分の気持ちと色調の関係をとらえ、表現に生かそうとしている。	自分の表現したいイメージをもち、タイプに合わせて描画材を選択することができる。 単純化、省略、強調、の仕方、材料の組み合わせなどを、工夫して豊かな構想を練る。 構成の仕方を理解し、独創的な表現を工夫する。	表現したい姿や思いをスケッチに表す。 喜怒哀楽がわかるように、目や口の表情をとらえて表現することができる。 心の内面を強く表現できるよう、線の効果を生かすことができる。	作品に込められた作者の心情と表現の効果など、仲間の作品のよさや美しさを感じ取りとることができる。

3 指導と評価の計画（全11時間）

時	ねらい	学習活動	評価規準	評価方法	指導援助
1	3つの作品の鑑賞から作品に込められた思いと表現のよさや美しさに気付くようにする。	<div style="border: 1px solid black; padding: 5px; margin-bottom: 10px;">作品の特徴や表現方法の違いについて学ぼう</div> 参考作品を鑑賞し、3つの作品の違いから感じたことを交流する。	< a - > 参考作品から、よさや美しさ、独特な表現技法などを見付けようとする。	鑑賞カード ・3つの作品から受ける感じと表現の違いを書ける。	3つの作品の描かれた時の作者の思い、時代、状況を話す。 < Cの生徒への手だて > ・線・色調・構成を近くで見せる。
2 ・ 3	「永遠に輝く自分」を主題として文章にその姿や思い表すことができるようにする。 イメージした自分をスケッチに表すことができるようにする。	<div style="border: 1px solid black; padding: 5px; margin-bottom: 10px;">「永遠に輝く自分」をどのように表したらよいのだろう。</div> 自分の表したい姿や思いを文に表す。 自分の表したい文章からイメージしたおおまかな自分をスケッチする。	< c - > 表現したい姿や思いをスケッチに表す。	制作ノート ・どんな姿でどんな思いかを具体的に書ける。 スケッチ制作ノート ・思いを表すためにどの位置にどの大きさでスケッチしたか。	あの時の姿・あの時の思いを個別に相談する。 人物の頭部の資料や様々な角度からみた頭部を提示して大まかな輪郭を描けるようにする。 < Cの生徒への手だて > ・資料の輪郭線を写して頭部を描かせる。目と口の部分資料から、自分の表したい表情に合った顔を描けるようにする。
4	鏡にうつる自分を見ながら、かきあらわしたい表情で描くことがで	<div style="border: 1px solid black; padding: 5px; margin-bottom: 10px;">自分の心の内面が伝わるように表情を工夫しよう。</div> 目や口の表情を工夫して	< c - > 喜怒哀楽がわかるように、目や口の表情をとらえて表現	イメージスケッチ ・喜怒哀楽がわかる表情をだすために、口もと	< Cの生徒への手だて > ・部分資料を転写する。

	きるようにする。	描く。	することができる。	や目を工夫することができるか。	
5	描画別作品を鑑賞し、自分の表現方法を選択できるようにする。	<div style="border: 1px solid black; padding: 5px; margin-bottom: 10px;">自分の表現にあった描画材を、選択しよう。</div> 自分の思いに合った表現方法や画材を選んで描く。 写実的タイプ 印象派タイプ ボックスアートタイプ	< b - > 自分の表現したいイメージをもち、タイプに合わせて描画材を選択することができる。	試しカード ・描画材を選択し、試し作品から自分の表したい作品をみつけることができる。	描画材による違いがわかる資料から描き方を見付ける。 < Cの生徒への手だて > ・制作過程 V T R をみながら描く。
6	基本的な描法で描けるようにする。	<div style="border: 1px solid black; padding: 5px; margin-bottom: 10px;">タイプ別の描法でスケッチしてみよう。</div> より効果的な表現を求めて、単純化や省略、強調による工夫をする。 ・自分に合った表現を生かす。	< b - > 単純化、省略、強調、の仕方、材料の組み合わせなどを、工夫して豊かな構想を練る。	イメージスケッチ ・単純化、省略、強調のいずれかを取り入れることができるか。	個別に単純化、省略、強調の手本資料から、描き方の手順を見付けさせる。 < Cの生徒への手だて > ・手順を横で示す。
7	自分の思いが強く表れる構成で下絵が描けるようにする。	<div style="border: 1px solid black; padding: 5px; margin-bottom: 10px;">自分の思いが強く表れるように、構成を工夫しよう。</div> 背景の構成、人物の入れ方、物との関わり等効果的な構成を考えて下がきをする。	< b - > 構成の仕方を理解し、独創的な表現を工夫する。	下絵 ・構成の仕方を構成資料からみつけて活用できたか。	構成資料を参考により思いが強く表れるようにする。 < Cの生徒への手だて > ・シルエットの人物を画面の上で動かしてみる。
8	自分の思いやイメージが伝わる下絵を描けるようにする。	<div style="border: 1px solid black; padding: 5px; margin-bottom: 10px;">自分を表現し、感情がわかる下絵にしよう</div> 資料作品を参考にして、線の違いによる効果を考えながら描く。	< c - > 心の内面を強く表現できるよう、線の効果を生かすことができる。	下絵 ・気持ちをより強く表すために線の強弱を取り入れることができたか。	線の強弱による違いを資料から見付けさせる。 < Cの生徒への手だて > ・線を、強くひく所と弱くひく所を個別で援助する。

9 ・ 10	作品に込められた思いやイメージが伝わる色調で彩色できるようにする。	<div style="border: 1px solid black; padding: 5px; text-align: center;"> <p>自分の心を表す色調を考えて、彩色しよう</p> </div> <p>色の感情による効果を資料作品から感じ取り、自分のイメージに合った色調や筆使いを工夫して描く。 自画像の主題と色調、作風、構成、を確認し、自分の思いを表す仕上げがをする。</p>	< a - > 自分の気持ちと色調の関係をとらえ、表現に生かそうとしている。	<p>作品 ためし紙</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 思いから寒色暖色・同系色対比色を選択し活用することができたか。 <p>作品</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ テーマから自分の思いが伝わるものになっているかどうか。 	<p>寒色作品 暖色作品 同系色作品 対比色作品</p> <p>を見て自分のイメージに近い彩色を行う。</p> <p>< Cの生徒への手だて ></p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 4つの彩色作品を示し、最もイメージに近い表現を選ばせるようにする。 ・ 個々の主題を確認しながら表現のよさを認める。
11	お互いの作品を鑑賞し、よさや美しさを見付けあえるようにする。	<div style="border: 1px solid black; padding: 5px; text-align: center;"> <p>完成した作品のよさや美しさを見つけあおう。</p> </div> <p>制作の振り返りを、ノートにまとめる。</p> <p>作品鑑賞会を行い、作者の心情と表現の効果について交流する。</p>	< d - > 作品に込められた作者の心情と表現の効果など、仲間の作品のよさや美しさを感じ取ることができる。	<p>制作ノート</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 自分や仲間の作品のよさについて、主題と表現とのかかわりでとらえている。 	<p>制作してきた時の気持ちと今完成した時の気持ちを綴り、題名カードに記録させる。</p> <p>< Cの生徒への手だて ></p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 制作ノートをもとに、制作過程のよさや頑張りを見付けさせる。

4 単位時間の授業展開例

(1) 本時のねらい

- ・鼻、口、目の描写方法を理解し、鏡にうつる自分をよく観察しながら、イメージに合った豊かな表情をとらえて顔を描くことができる。

(2) 本時の位置

4 / 1 1

(3) 展開案

過程	学習活動	評価について	指導・援助
導入	<p>本時の課題を知る。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・美術係による司会。 ・本時の課題を発表する。 ・進路に向かって頑張る自分だから、自信をもった自分の顔を描きあらわしたい。 ・不安もあるけど、目標にむかって頑張る顔にしたい。 	<p>自分の主題を確かめ、課題をもつことができる。</p> <p>【関心・意欲・態度】 [制作ノート、発言]</p>	<p>全員の作品を展示し、現在の自分の顔の思いを確認する。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・制作ノートで確認をする。
<p>思いに合った表情の顔を描くには、どうしたらよいだろう。</p>			
展開	<p>主題を表す顔を描くにはどうしたらよいかを知る。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・資料から、自分の表したい表情を選んで、参考にする。 	<p>< c - ></p> <p>喜怒哀楽がわかるように、目や口の表情をとらえて表現することができる。</p> <p>[スケッチ]</p> <ul style="list-style-type: none"> ・必要な資料を自分で選択し、目や口、鼻の表情をとらえて表現する。 	<p>目や口などの描き方と表情の違いを気付かせる資料を提示する。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・資料コーナー 表情別作品例 目の作品例 口の作品例 制作VTRコーナー 鼻 口 目の描き方
まとめ	<p>いろいろな描き方を試しながら自分の気持ちにあった表情をとらえて描く。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・自分のかきあらわしたい顔の表情にあった資料を選ぶ。 ・どこから描くといいのかな？ 描く手順 描写方法 ・鏡で自分をよく観察して、思いに合った目や口、鼻の表情をとらえる。 <p>本時の成果を確認する。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・目・口・鼻をどのように表現したかを発表する。 ・美術係が司会となり、作品を全員展示する。 ・伝わる気持ちを発表する。 	<p>A 顔全体の表情や感じを意識しながら目や口の表情をとらえている。</p> <p>仲間の作品の表情から、どの部分の工夫によって、表情が表れているのかに気付く。</p>	<p>< C に対する手立て ></p> <ul style="list-style-type: none"> ・思いを聞き取り、表現に合った資料を紹介し、手順を示す。 <p>本時の成果を確認するために、グループで、3人ずつ発表させる。</p>

5 評価の実際と個に応じる指導事例

(1) 本時重点的に取り上げた評価規準

< c - >

喜怒哀楽がわかるように、目や口の表情をとらえて表現することができる。

(2) 評価の実際

【評価の方法】

[スケッチ]

- ・必要な資料を自分で選択し、目や口、鼻の表情をとらえて表現しているか。

【判断した生徒の状況例】

- ・Hさんは、資料から自分の思いに合った表現の見通しをもち、顔全体の表情や感じを意識しながら目や口の表情を豊かにとらえて表現していたのでAと判断した。
- ・Kさんは、鏡で自分の顔をよく観察して何度も描き直し、表情豊かな目をとらえて表現できていたのでBと判断した。
- ・Mさんは、自分の表したい表情がイメージできず、よく観察して描いているものの、部分の形にこだわり表情を意識して描くことができていなかったためCと判断した。

(3) 個に応じた指導の実際

【主題に関わって】

- ・Mさんが表したい気持ちは、「辛くても頑張りぬく自分」である。漠然としたイメージはもっているものの、どのように表現したらよいのかで迷っている。

手立て : 表情別作品例をもう一度一緒に確認し、目や口から受ける感じを確かめたり、どんな描き方をしているかを気付かせたりした。

【技能に関わって】

- ・Mさんは、とても慎重で、なかなか思い切って描くことができない。本時においても、目の細かなところにこだわって描いていることはよいが、なかなか進まなかった。

手立て : スケッチの用紙を何枚も与え、もっと楽に何枚も描き、その中で自分のイメージに合った表情を見つければよいことを提案した。

手立て : Mさんは、観察力はもっているため、顔の描き方の手順を示し、参考資料等(VTR等)を活用することもすすめた。

【生徒の変容】

- ・まず、資料と一緒に確認したことがよかった。形を観ることと表情とのかかわりが少し理解できたようで、スケッチの描き方が目だけだったものが、顔全体の中で考える姿が出てきた。何枚も描くことはできなかったが、表情を意識した表現に変わってきた。

今後は、Mさんのスケッチや作品の中で、表情に関わるとらえ方のよさを具体的に認めていくことが大切である。